

編集 後記

リーマンブラザーズに端を発する世界同時不況の影響は、日本にとって普通3年半で回復するという定説を超えて、バブル破綻時には15年にわたってようやく回復の兆しがみえはじめ、これからという時だただけにかなりの衝撃を与えました。ベトナム戦争の泥沼から教訓を得ていたであろうと思っていたアメリカが巨大な軍事力を背景に、傲慢な一人芝居を行ったツケがここにいたって噴出したように思います。

さて、2008年度版の『年報』第43号を刊行する運びとなり心から嬉しく思うとともに、刊行に当たり執筆協力を頂いた参与と所員をはじめとする関係者に感謝申し上げる次第です。

本年度の編集経緯をみますと、論文12編の執筆申し込みをいただきました。しかしながら、最終的には7編となり、寂しい限りとなりました。特に、ここ10数年来初めて所員の執筆が一編もないという事態になり、編集担当としては危機的状态と危惧しております。場合によっては、執筆予定を含め何らかの対応を検討しなければならぬのではと感じております。所員の皆さんには同様な危機意識を共有されることを願い、いっそう奮起してご協力をいただきたくお願いする次第です。昨年、西川善介参与が他

界なされ、昨年度の年報にて『日本林業史Ⅱ』を掲載しましたが、その後『日本林業史』の完結編が見つかり、この度奥様のご協力を得ながら掲載できる運びとなりました。

また、本年度は投稿規定枚数100枚以内を超える原稿がでましたが、本編自体が少ないこともあり、今回は特例として総会で承認をいただきました。編集担当としては仕事量が少なくなるのはうれしい反面、このような状況がルーチン化することは望みません。

なお、事務・編集作業全般をサポートして頂いた土屋みな子さんには、いつもながら無理なことをお願いしまして大変申し訳ありませんでした。この場をお借りしてお礼申し上げます。今年はかなり部分の部分を土屋さんにご負担をおかけしたようで、ギックリ腰になったのも社研の仕事量によるストレスからではないか、と心配しています。

また、最後になりましたが、本年度も編集作業を進める上で、公人社の大出明知氏には例年のごとく何かとご無理をお願いし大変お世話になり、心から御礼申し上げます。

(前田 和實)